

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100099		
法人名	有限会社保泉商事		
事業所名	グループホーム花みずき		
所在地	甲府市上阿原526番地1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来10年となりました。住宅街の静かな環境の中で木造平屋のゆったりとした住宅で衣食住を共に体操やレクレーションなど毎日行っており、季節折々の行事 誕生日での利用者と一緒にの手料理や余興など楽しい生活を過ごしております。  
当ホームの畑では春にはじゃが芋、夏はとうもろこし、夏すいか、秋はさつま芋、四季の花々や野菜など楽しく育て食卓を賑わしております。  
利用者様のテンポに合わせ会話や言葉がけをしており、ひとりひとりのニーズに答え、安心安全の支援をしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は木造平屋造り1ユニットで国道から少し入った住宅地にあり、国道沿いには大型店が並び商業地と住宅地、果樹畑の生活環境にある。利用者の居室は全室南向きで、行き来できる共有のウッドデッキが備えてあり、日当たりもよく気持ちよく過ごすことができる。住宅地の中にあり、自治会に加入して地域住民とのつながりを持ち、夏には事業所の駐車場を開放して地域の人たちにも呼びかけて夏祭りを開催し交流の場としている。フロアに置かれた民芸調の丸いテーブルは、食事しやすく職員との会話も弾み家庭的な雰囲気を楽しみひと時となっている。職員も利用者本位の声かけをし、本人が自信を持って過ごせるように日々の支援に努めている。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成29年11月28日(火)		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざして、いつでも、どこでも、だれにでも。」を理念に掲げ地域の中で温かい介護サービスを目指しています。 管理者と職員は理念を念頭に温かいケアサービスを目指しています。	地域の協力、近隣の人たちと親しくを意義とした事業所理念が、玄関、キッチンに掲示してあり、日頃から意識づけがされている。フロア会議の中でも認知症ケアの学習をし、個々の技術と能力を高め、明るく、楽しく利用者に接していく事を目標に、職員間で共有し日々のケアに繋がるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加わり地域活動に積極的に参加し交流しております。文化祭や側溝掃除に朝はやく参加したり 畑で採れた芋やカボチャなど差し上げたり、葡萄など寄付して頂いたりして交流を深めています。	地域の一員として自治会に加入し、側溝清掃にも職員が協力している。文化祭には職員と一緒に利用者が参加したり、回覧板は次の家に届ける利用者も決まっております。地域とのコミュニケーションを図っている。また、事業所前の道が小学生の通学路となっており利用者と同様になり、登校時や下校時に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が施設を見学したいと希望された際は快くご案内をしながら認知症の説明をしたり、夏祭りにご招待をし認知症の利用者様とカラオケをしたりスイカ割りなど参加して地域の方々に理解して頂いております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回 運営推進会議を開催し、サービスの向上など助言を頂いております。有識者や経験者など参加して頂きサービスの参考・向上に活かしております。	2か月に1回、偶数月の第3火曜日に開催している。事業所からの報告と共に参加者から質問、意見、要望を受けている。川が氾濫した時の避難経路について相談した所、民生委員から地域にある特別養護老人ホームの施設に避難してはどうかと話があり、実際に利用者と一緒に避難経路を歩いて避難に係る時間を図った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	甲府南東地域包括センターや市役所へは直接書類を届けに伺い日頃から密に事業所のご家族の対応やケアサービスの取り組みを伝え前向きに相談しております。	運営推進会議には市の包括担当職員が参加しているのので、議事録を市担当者に届け、事業所の実情や取り組みを伝えている。また、更新の書類提出や事故報告書の書き方など指導してもらっている。出向いた時に担当者が不在で会えなかった時などは、担当者から電話をもらう等協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝、夕のミーティングには管理者・ケアマネ・職員など身体拘束を理解しているが、認知症の帰宅願望の重い方が入居されたので安全など考え、ご家族の同意を得てやむなく玄関を施錠しております。	朝のミーティングの中で、利用者の行動を制限するような言葉づかいや身体拘束に繋がる行為をしていないか、職員間で話し合い確認している。また、各月のフロア会議でも身体拘束に関するテーマで勉強理解を深めている。帰宅願望がある利用者の安全面を保つため家族からの要望もあり、今は玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては全くないのです。 管理者・職員高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち皆で直接注意を仕合い、強い口調やスピーチロックの注意を促しております。言葉の暴力など絶対無いよう予防しております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学び、成年後見人制度などを活用して家族にその活用を説明出来る様になっております。研修に積極的に参加しております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の前にはご本人とご家族十分に見学して頂き、良く説明させていただき、そして契約時に契約書及び重要事項時間をかけ十分説明し、質問を受け、また掲示してあります。理解 納得して頂いております。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者のご家族に通知を出して会議に参加して頂いております。意見、要望を承っております。イベントに参加して頂き接しております。また、元施設長へ質問されたりして運営に反映しております。	利用者家族には、毎月「花みずき便り」で運営推進会議の参加を含めて日頃の様子を知らせている。面会時に家族等に話しかけ何でも言ってもらえるような機会を作っているが、運営に反映させるような意見、要望は出されていない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議では積極的な意見交換をしております。職員は経験も豊富にて直接意見や提案をします。多くは職員の意見をきいて、改善、反映しております。	管理者には気軽に何でも言える関係でいつでも意見、要望を伝える事ができる。備品購入についても、フロアリーダーを通して管理者に伝えられ要望する生活用品の購入をしている。また、職員から雨が続きの時など洗濯乾燥機が必要との要望があり、購入予定である。処遇改善も年2回あり、働く意欲の向上にも繋がっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて、職員個々の努力や実績、勤務態度など 状況を把握し、職場環境・条件を整備しております。フロア会議では改善が必要な時はよく話し合い改善し、必要場合は本部に要望して行く様取り組んでおります。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外研修に参加するようすすめている。介護福祉士の受験で働きながら学ぶ環境を作っております。施設内勉強会をテーマ・担当者を決めて行っております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲府南東地域包括センターや近くのグループホームと交流を深め、相互訪問して活動を通じてサービスの質の向上にとりくんでいます。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や混乱、周囲からのストレスを考慮し、優しく丁寧に温かい言葉で接している。スキンシップで話しやすい雰囲気を作り、本人の表情や態度、話しの内容などから感情を理解し、受容の態度で接して降ります。想いに感銘しながら寄り添う姿勢で安心を確保出来る様努めております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちになり家族の思いを尊重し、認知症を正しく理解して頂き不安な事をしっかり受け止め要望を伺い安心出来る様努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の面談を行い紹介して頂いたケアマネジャー、病院のソーシャルワーカーや医師・看護師・理学療養師・の方々や施設住診の医師・看護師の意見を管理者・CM・介護職員とで検討しながら見極め 必要としている支援や他のサービス利用も含めた速急に出来る限りのプランを立てて対応しております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や昔からして来た事などの把握をし、役割を持って頂き、職員と利用者さんが共に支えあう関係を心がけております。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の思いをしっかりと受け止め、ホームでの行事にも参加して頂き共に支え合う関係を心がけております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・近所の仲間の方々気軽に来所されたり、ご家族と一緒にの墓参りをされたり、以前の住まい周辺のドライブ夏祭りにご家族友人を招いたり関係が途絶えないように支援しています。	入居前一緒に無尽をしていた仲間5~6名が訪ねて来たり、以前から親しくしていた布田屋さんが夫婦で面会に来ていた。また、家族と一緒に墓参り、住まい周辺のドライブ、住まいを見に行くなど馴染みの人と場所の関係が途切れないよう継続支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人の把握に努め職員が仲に入り話題の提供や家事の役割、レクでの集団行動を行いながら、孤立しない様支援 より良い関係が築ける様、支え合える環境作り心がけています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居されてもご家族から経過の連絡を頂いたり 面会に伺い前の関係を継続し、ご家族の相談や支援に努めております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、会話、表情、行動等から、利用者様の思い聞いたり感じたりし、気付きは細かく職員間で共有し意見を出し合ってケアに活かしている。 困難な方場合はご本人の希望や家族様からも情報を頂いております。	日頃の関わりの中で言葉や表情から思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者には、家族等に聞いて対応している。 帰宅願望がある利用者は娘に電話して実家に帰りたいとの思いを伝えたと家族から聞いた。また、封筒と便箋を使い、思いや、食べたい物、行きたい所を紙に書いてもらい対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、ご自宅・施設・病院等を訪問し、事前調査を行い、本人・ご家族から生活歴や馴染みの暮らしかた、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を伺いながら家族から意向を探る様今までの生活が継続出来る様努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、バイタルや顔色、排泄、食事の量や心身状態を把握し、小さな変化も気付ける様注意して、情報共有して状況変化に応じて対応出来る様に努めております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から意向を聞き本人にとって何が重要なか担当の職員を決め利用者・ご家族・医師・看護師・管理者・職員の意見を出し合って現状に合った介護計画を作成しております。	入居時に利用者、家族の意見、要望を基に暫定で介護計画を作成し1か月で見直しをしている。朝のミーティングでアセスメントを含め職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、3か月または6か月で見直しを行っている。 往診医や看護師、利用者、家族等の意見を基に現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録やケアの実践・結果・気づきや工夫をご家族の要望を医療機関や看護師などからアドバイスを受けながら職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしております。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様のニーズに合わせて対応し過去に捉われず医療機関や専門職のアドバイスの受けながら連携を図り、設備など不足しているが細かく柔軟にサービスの多機能化に取り組んでおります。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの訪問があります、畑づくりや読み聞かせ、フルート演奏・フラダンス・大正琴など演奏に合わせて一緒に歌ったり安全で豊かな楽しい生活を支援しております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は協力医院・医師の先生が隔週で往診に来ている。体調不良時は直ぐに主治医へ連絡し、指示を仰いでおります。	事業所の協力医を本人・家族が希望するかかりつけ医として、往診日に受診している。状態に変化があった場合は、家族等に電話で報告し情報を共有している。内科以外の診療科への受診は、家族同行としている。また、協力医の歯科診療については、職員が同行して対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回日勤で出勤しています。健康状態の観察や機能訓練をしています。夜間も対応している、利用者の健康管理やメンタルケアも見ております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は医療機関と密に連絡を取り合い情報交換をして居ます。早く退院出来る様、必ず面会に行き状況を把握出来る様努めて病院と良好な関係を構築しております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が状況に応じて協力医院・看護師・ケアマネと連携し、ご家族、本人と話し合いを行っております。	入居の契約時に、事業所では看取り対応をしていない旨の説明をし、家族の意向を踏まえ、他施設への申し込みを促している。日常生活の中での見極めとしては、身体状況が低下し、介護サービスが行えない状態になり、事業所で共同生活の継続が困難と医師が判断した場合とし、家族に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備え、全職員は応急手当や初期対応の訓練を行っております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回、毎年行っております。自治会の消防団など参加してもらっております。職員全員が訓練に参加しております。近年災害が増えているため、今以上に危機意識を持ち避難の方法を検討したりしております。	年2回、避難訓練を実施している。通報、初期消火、利用者誘導訓練をして災害に備えている。地域の消防団も訓練に参加し避難時の指導をもらっている。また、自主訓練として業者から消火器、火災通報装置の使い方の指導を受けている。夜間想定訓練、心肺蘇生法訓練は今後予定が組まれている。	年1回の訓練では夜勤をする職員全員が体験することが困難である。そのため、日頃から利用者の状態を踏まえて如何なる災害に対しても具体的な避難方法についてミーティングやフロア会議で話し合い、いざという時に確実な避難誘導ができるよう全職員が身につける事を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬している。利用者の誇りや個人の生活リズムやプライバシーを守りつつ言葉かけや接遇に職員間で注意仕合いより良い介護を心がけております。	接遇に対する事業所内研修があり、「あいさつ・表情・身だしなみ・言葉づかい・態度」の接遇マナー5原則を学んでいる。利用者の気持ちを大切に、日常生活においても一人ひとりの生活歴を尊重し、さりげない言葉かけをするように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人はどうしたいのか？」また、意思表示が困難な方「本人ならどうしたいのか？」という本人主体となる考え方を念頭に可能な限り希望に添えるよう思いや希望を表現出来る様関わり意識しております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来る事やペースを大切に職員の配置や職員側の見方をしないで利用者優先で希望に添える支援をしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類のみだれや最低限意識しております。本人の好きな色の衣類に意向をお聞きしながら着替えを支援しております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きな食べ物やメニューを聞き 利用者と同じ物に出掛け可能な限り一緒に調理し盛り付け、配膳、片付け、食器洗いまで一緒にしております。	業者から調理した副菜が届き、手を加えて盛り付け、配膳等を利用者と一緒に行っている。週1回、昼食は利用者の希望を聞いてメニューを作り食材の買い物に行っている。片付け、食器洗い等利用者も手伝っている。職員と利用者が同じテーブルで会話しながら話題を作り、楽しい雰囲気の中で食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回記録しております。水分については毎回声かけし、飲んで頂きゼリーや果物など水分の多いおやつを差し上げております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕、に声かけ誘導又は介助にて必ず口腔ケアを行い、清潔保持に努めて居る。また、義歯をポリドントに一晚丁寧に洗浄消毒しております。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個別に排泄の間隔、トイレに行きたくなる時のサインを共有している。また、随時検討を行い可能な限りトイレでの排泄を行えるよう取り組んでおります。	排泄チェック表を使用し、利用者毎に誘導の時間を決めてトイレで排泄できるよう支援している。ケアプランにも入れてあり、失敗した場合は変更している。また、利用者が失敗した場合はその都度、居室で着替えて根気よく対応し、おむつを使用しないでトイレで排泄できるよう取り組みをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の支援の中で発熱 食欲不振、膨満など便秘が原因起こる症状を理解し体操や食事、マッサージで改善出来る様と取り組んでおります。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回ゆっくり入って頂いているが利用者が嫌がる様だったら無理をせず後日入る様予定しています。それ以外にも希望があったら応えている、失禁等があった場合は入って頂いております。	基本的には、週2回の入浴となっているが、希望があればいつでも入浴している。同性介助や入浴を拒む利用者は決まった職員に合わせて入浴を試みている。浴槽はジェットバス仕様になっていて、使用して足や腰などマッサージ効果もあり、くつろいだ気分で入浴することができる。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に合わせて体操したり歌を唄ったりテレビを見たり利用者に合わせ良く眠れるよう支援しております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬剤師の薬の説明書をよく読み薬の目的や副作用、用途や容量について理解している。薬の変更があった時はすぐ周知しております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長く住んでいると自然に役割が決まってきます。洗濯を干す方、たたむ方、調理の盛り付けの上手な方、草木、花に世話のうまい方など、回覧板を届けに行ける方、カラオケで歌う事の好きな方等、楽しみを見出し、気分転換を図っております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は出来るだけ近くへ散歩に出かけている。牛乳を職員と買いに出掛けたり、畑に日光浴に出たり、歩行困難の方は車椅子で近くを散歩を行っております。ご家族は静岡県のお墓参りに連れ出して頂いております。また外食にご家族と一緒に出かけられます。	車いすの利用者も一緒に散歩したり、外のテーブルでお茶を飲むなど短時間でも戸外に出る機会を作っている。お茶とおやつを持って事業所から少し離れたスポーツ公園に行ったり、洋らん園に見学に行き、お店の売店でかき氷を食べて帰ってくるなど、季節を感じる外出も含めて一人ひとりが楽しめるよう支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から必要程度の金銭を預かり、施設で管理している、小銭程度は所持している。外出した際ちよっとの買い物しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	午後のレクリエーションにそれぞれの大切な人に手紙書いてほしい家族のお礼のお手紙ですが思いを手紙にしたためています。電話があったり、かけたりの支援をしております。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有ホールには利用者一人ひとりの椅子があり、常に整理整頓して危険の無い様している。食事中には懐かしい音楽を流し、季節に応じた掲示物を利用者と一緒を作成して、室内温度を調整して居心地の良い空間づくりをしています。	共用フロアを挟んで居室がある。日中利用者が過ごしている共用の場所は明るく清潔感があり、季節を感じる飾りつけがされている。また、廊下の壁には行事の写真が貼られ訪問した家族等も日頃の様子を知ることができる。洗面所やトイレは広く利用者に使い易くなっている。サンルームやウッドデッキは洗濯物や布団干しに利用して日当たりもよく居心地よく過ごせるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では テーブルの方々仲良くなり世間話をされています。またテレビの近いホールではちゃんと一人ひとりの椅子がありレクリエーションを楽しんだり気の合った同士が冗談を言ってくつろいでおります。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔からの馴染みの家具や椅子等を置いている、使い慣れた日用品や大切な子どもやお孫さんの写真、手紙など飾っている、温度調節や細かい光などいろいろの配慮をしております。	居室は、全室南向きで共用のウッドデッキが付いていて日当たりがよく、和室と洋室の二つのタイプがあり、押し入れ、エアコン、カーテンが備えてある。整理ダンス、テレビ、写真等を持ち込んで利用者と家族で部屋作りをし、それぞれの利用者の居室が居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では利用者が場所がわかるようトイレの文字や絵で表示している。居室のドアに表札を貼り本人のお部屋がわかるようにしている。「できること」「わかること」を把握し活かして安全でかつ出来る限りの自立を促す様支援しております。			